

『南山神学』38号（2015年3月）pp. 229-261.

閉ざされた門がひらく

—コーラ修道院葬礼用礼拝堂の「閉ざされた門」解釈—

清水 美佐

序

彼は私を、東に面する至聖所の外門へと連れて戻った。それは閉ざされていた。そして主は私に仰せになった。この門は閉ざされたままにしなければならない。これはひらかれてはならず、誰一人これを通してはならない。というのもイスラエルの神である主がここに入られるからであり、これは閉ざされたままにしなければならない。¹

エゼキエル書 44: 1-3 には特別な門の記述がある。閉ざされたまま、ただ神のほかには誰も通ることがないとされるこの門は、キリスト教の予型論解釈において聖母マリアの予型として見なされてきた。5世紀のコンスタンティノポリス総主教プロクロスは、エゼキエル書 44: 1-2 の箇所を引いて「これこそが聖なる、テオトコスなるマリアの明らかな証左」と呼び、キリストを世にもたらしたおとめマリアと「閉ざされた門」を結びつけている²。8世紀の教父たちは、その

¹ エゼ 44: 1-2。なお、本稿で旧約聖書を引用する際は七十人訳を用いる。 *Septuaginta: id est Vetus Testamentum graece iuxta LXX interpretes*, revised edition, ed. by A. Rahlfs and Robert Hanhart, Stuttgart 2006.

² Nicholas Constas, *Proclus of Constantinople and the Cult of the Virgin in Late Antiquity: Homilies 1-5, Texts and Translations*, Leiden 2003, pp. 146-47.

多数の著作の中で度々「閉ざされた門」に言及する。ダマスコのヨアンニスは「聖母の眠り」の祝日において、「閉ざされた門」は聖母マリアであること、マリアを通して神が身体を受け、更におとめのしるしが永遠に留められていることを説く³。コンスタンティノポリス総主教ゲルマノスは「聖母神殿奉献」の祝日に、「今日、神殿の門は大きくひらかれ、東に面する封じられた門、インマヌエルがお入りになる門を受け取る」⁴と述べ、幼いマリアを迎えてひらく神殿の門と将来キリストが入る「神殿の閉ざされた門」たるマリアとを修辭的に表現した。クレタのアンドレアスは「お告げ」の祝日に寄せて、「あなたはまことに祝福された方、エゼキエルが『東に面する門』と預言した方、その門は閉ざされていたが、ただ神のみが通り抜け、そして再び閉ざされた」⁵と語る。教父らの言及はいずれも「閉ざされた門」をマリアの処女性の表象として捉えており、おとめにして神の母となったマリアを讃美するものである。

エゼキエル書の当該箇所は、典礼においても聖母マリアと結びつけられる。マリアに関連するほとんどの祝祭日（「聖母誕生」「聖母神殿奉献」「お告げ」「聖母の眠り」）において、典礼中の旧約聖書朗読箇所のひとつとしてエゼキエル書 43: 27-44: 4 が採用されており⁶、祭司による祭壇への献げ物、閉ざされた門、神殿に満ちる主の栄光が語られる。「閉ざされた門」は、典礼や説教などを通して人々になじみのある聖母の予型主題であった。

絵画化された「閉ざされた門」は、古くは 1100 年頃のイコンに見られるが⁷、

³ Jean Damascène, *Homélie sur la Nativité et la Dormition, introduction, traduction et notes par Pierre Voulet, s. j., Paris 1961, pp. 104-7.*

⁴ Mary B. Cunningham, *Wider than Heaven: Eighth-Century Homilies on the Mother of God, New York 2008, p. 147.*

⁵ J. P. Migne, *P. G.*, 97, 900 A; Cunningham, *Wider than Heaven*, p. 209 and note 44.

⁶ 典礼朗読箇所の典拠として以下を用いた。Juan Mateos, *Le Typicon de la Grande Église: ms. Sainte-Croix no. 40, Xe siècle, vol.1, Roma 1962.*

⁷ シナイ山聖エカテリニ修道院のバナギア・キコティッサ Panagia Kykkotissa と呼ばれるイコン。このイコンについての詳細な記述と論考は以下の文献を参照。益田朋幸『ビザンティン聖堂装飾プログラム論』（中央公論美術出版社、2014年）477-504頁。

聖堂の壁画装飾に現れるのは13世紀以降のことである。図像は基本的に、預言者エゼキエルと門の組み合わせで描かれる。「閉ざされた門」は、ほかのいくつかの聖母の予型主題とともに描かれるのが通常であり、コンスタンティノポリスのコーラ Chora 修道院に残る「閉ざされた門」の作例も、そうした聖母の予型図像サイクル中に描かれたものである。

本稿は、コーラ修道院の「閉ざされた門」の場面において、閉じた門らしき表象が見られないという問題に端を発する。アンダーウッドによるモノグラフ刊行以来⁸、様々な研究者らがこの問題に困じ、明確な答えの出ないまま棚上げとなっている。本論文では最初にコーラ修道院の「閉ざされた門」を詳述し、続いて他の聖堂の作例における「門」の図像表現を考察し、最後に「閉ざされた門」の場面に表される門や人物像の位置関係に焦点を当てて、コーラ修道院の「閉ざされた門」の図像表現について新たな解釈を試みる。

1. コーラ修道院葬礼用礼拝堂

コーラ修道院はイスタンブールの北西に位置し、現在カーリエ博物館として公開されている建物である。ビザンティン帝国終焉ののちモスクに転用されていたが、1947-59年にアメリカのビザンティン研究所による調査・修復が行われ⁹、モザイクやフレスコが再び姿を現して今日に至る。現在見られる装飾のほとんどは1316-21年の間に行なわれた大規模な改修・増築によるもので、当時のビザンティン帝国税務局長であったテオドロス・メトキティスが、彼と親族の墓所聖堂として寄進したものである。壁面の大部分が状態良く残っており、ビザンティン後期の聖堂の代表的な作例として知られる。

聖堂はナオス（本堂）と二重のナルテクス（玄関廊）、葬礼用礼拝堂で構成され、葬礼用礼拝堂はナオスの南側に沿って建てられている。葬礼用礼拝堂は東

⁸ Paul A. Underwood, *The Kariye Djami*, vol. 1-3, New York 1966.

⁹ この調査の成果がまとめられたものが註8のモノグラフである。

西 2 つの区画からなる。東側は「冥府降下」や「最後の審判」といった死者を送るにふさわしい主題で飾られており、西区画には南北の両壁面にわたって、聖母を予型する旧約聖書の場面が表されている¹⁰。

1-a. コーラ修道院の「閉ざされた門」記述

聖母を予型する旧約聖書の諸場面のうち、「閉ざされた門」の場面は、礼拝堂の西端を構成するアーチの北側壁面に描かれている。以下に場面の記述を行なう【図1】。

前景の左手に、ユダヤの祭司の服装をした 3 人の人物が並ぶ。いずれも頭部にニブスがつけられ、小さな帽子をかぶり、白みがかった長髪長鬚の容貌である。3 人とも黄金色の小箱を手に献げ持っている。中央の祭司は衣で両手を覆い、小箱を恭しく持ち上げる。先頭の祭司は小箱に加えて黄金色の吊り香炉を振り、祭壇に向かって献香している。先頭と後方の祭司は深く身を屈め、中央の祭司は大きく足を踏み出し、いずれも動的な身振りである。足元の床には縞大理石のような模様がついており、祭司らが立っているのは建物の内部のようである。

前景右手には、薄い灰色の大きな段が 2 つ重なる。段の中央に、一本足のついた立方体型の祭壇が設えられている。祭壇は金色の縁飾りを施された赤い布で覆われており、前面にスペード型の飾りがある。祭壇の三方を囲むようにして、ばら色の大理石模様の壁龕が付属する。祭壇と合わせて玉座を思わせるような特殊な形状である。壁龕の後方には、壁とそれに接続して立ち上がる縦長の建築物がある。建築物の上には赤い幕が掛け渡されており、場面が屋内であることを示す。

¹⁰ コーラ修道院の聖母の予型画像サイクルについては、次の文献の中に紹介されている。橋村直樹「後期ビザンティン聖堂における予型論的表象に関する一考察」『エイコーン：東方キリスト教研究』36 (2007) 105-122 頁。葬礼用礼拝堂北壁面の「ヤコブの梯子」「モーセと燃える柴」の画像解釈については、拙論「闇と光における神との出会い：コーラ修道院葬礼用礼拝堂《ヤコブの梯子》《モーセと燃える柴》考察」『共生学』9 号 (2014 年) 51-76 頁で扱っている。

祭司たちの後景には、立方体のように表された地面の上に、建築物の外観が小さく表されている。建物の後方にアプシス状の張り出しがついており、聖堂に特徴的な形状である。建物の前面には階段と大きな飾り柱があり、先述の赤い幕の端が結びつけられている。

画面上方の右端には、薄い灰青のグラデーションを用いて半円形の天の弧と菱形の光線が描かれており、神の栄光が辺りを照らす様子を表している。光は右上の細長い建築物に射しかかり、それを通り越して先頭の祭司まで届く。画面全体の背景は紺地で塗られており、中央に銘文の断片が残る。

1-b. 先行研究の解釈

この場面は、まず主題同定の段階から議論があった。アンダーウッドは、銘文の断片にある「祭壇」「焼き尽くす献げ物」という言葉、また献物を手にした 3 人の祭司と祭壇が描かれていることをもとに、レビ記 9 章または出エジプト記 29 章におけるアロンとその子らの献げ物の場面と推定した。また、同じ礼拝堂内に描かれた聖母の予型主題、「ソロモンの神殿奉献」¹¹における「契約の箱の安置」と場面の要素が似通っていることから、両主題の呼応を指摘した¹²。しかしエングバークは銘文の断片を精査することにより、銘文の記述がエゼキエル書 43: 27 であることを明らかにした¹³。この箇所から始まる同書 43: 27-44: 4 は、聖母祝祭日の典礼における朗読箇所であり、かつ「閉ざされた門」という聖母の予型を含むことから、この場面はエゼキエル書 43: 27-44: 4 を描いたものと結論づけられた¹⁴。これはアンダーウッドも含め、以降の研究者たちに受け入れられている¹⁵。

¹¹ 列王記第三 8: 1, 3-7, 9-11。

¹² Underwood, *Kariye Djami*, 1, pp. 235-237.

¹³ Gudrun Engberg, "Aaron and His Sons': A Prefiguration of the Virgin?," *Dumbarton Oaks Papers* 21 (1967), p. 281.

¹⁴ *Ibid.*, pp. 281-83.

¹⁵ Sirarpie Der Nersessian, "Program and Iconography of the Frescoes of the Parecclesion," in: *The Kariye Djami*, vol.4, ed. by Underwood, New York 1975, p. 346, n. 262.

場面の特定はなされたが、依然残る問題があった。そもそもの主題同定を困難にしていた要因でもあるが、コーラ修道院の当該場面には「閉ざされた門」らしいモチーフが見られないのである。この場面に関して、先行研究は次の解釈を試みている。アンダーウッドやエングバーグは、祭壇が玉座のような形状をなし、それに向かって献物を手にした3人が礼拝していることから、マジの礼拝を想起させると指摘した¹⁶。ネルセシアンは、なぜコーラ修道院の画家が「閉ざされた門」の図像を割愛したのかわからないとしつつも、向かい側のアーチ壁面に描かれた「アッシリア王へのイザヤの預言」¹⁷との関連に注目した¹⁸。場面中のエルサレム城門扉口に小さく聖母の描き込みがあることに言及し、「閉ざされた門」における聖母の予型は「アッシリア王へのイザヤの預言」との組み合わせにおいて示唆されているのではないかと推測している。

コーラ修道院の聖母の予型図像について書かれた先行研究はほかにもあるが¹⁹、「閉ざされた門」の場面解釈については特に扱わないか、上述の解釈を引用するにとどまり、なぜ閉じた門の表象がないのかという問題は未解決である。

2. 「閉ざされた門」における門の図像表現

コーラ修道院の「閉ざされた門」の場面を解釈するにあたり、まず「閉ざされた門」の他の作例において、門がどのように図像化されているか確認する必

¹⁶ Underwood, *Kariye Djami*, 1, pp.235-37; Engberg, "Aaron and His Sons," pp. 282-83.

¹⁷ イザ 37:33-38。

¹⁸ Der Nersessian, "Program and Iconography," p. 348.

¹⁹ ウスターハウトはコーラ修道院に関して多数の論考を著しているが、聖母の予型図像サイクルの解釈についてはアンダーウッドとネルセシアンの解釈に倣うものである。Robert Ousterhout, "Temporal Structuring in the Chora Parekklesion," *Gesta* 34, no. 1 (1995), pp. 63-76; idem, *The Art of the Kariye Camii*, London 2002; アキュレクは葬礼用礼拝堂の聖母の予型各場面について説明する際に、本稿の主題である西端北壁の場面のみ、言及そのものを避けている。彼はこの場面をあくまでも「祭壇前のアロンとその子ら」の主題と見なしてプログラム全体の解釈を進めている。Engin Akyürek, "The Marian Iconography of the West Bay in the Parecclesion of Kariye," *Sanat Tarihi Yılığ* 15 (2002), pp. 7, 13; このほか、別の聖堂作例を中心に論じる文献については、後述する各作例考察の部分で言及する。

要がある。聖堂装飾における「閉ざされた門」の図像作例は、先行研究から筆者が把握し得た限りでは、1290年代を始めとしてビザンティン末期までに10作例が少なくとも現存する。全く同じ図像はないが、大きく分けて、預言者エゼキエルと門（扉）を組み合わせる簡潔な形式と、コーラ修道院の作例のように、更に複数の要素を盛り込んで物語場面的な描写をする形式とがある。まず預言者エゼキエルと門扉を組み合わせる作例から見る。

2-a. エゼキエルと門を組み合わせる作例

1316-18年の作例、スタロ・ナゴリチャネ Staro Nagoričane のスヴェティ・ギョルギ Sveti Gjorgi（聖ゲオルギオス）聖堂では、「聖母の眠り」の場面両端に聖母の予型図像が組み込まれている²⁰。聖母の予型モチーフを伴う8人の旧約預言者がマリアの死の床を縁取り、エゼキエルは画面左端に浮かぶ【図2】。半身像のエゼキエルが左手に巻物を広げ、右手で黄金色の両開きの扉を示す。扉は閉ざされており、扉のパネル上には白い線で細かなハイライトが施される。6枚のパネルのうち下の2枚には平行線が、上の4枚には中央から外方向へ下る斜線が引かれている。

14世紀、ペチ Peć 総主教座の外ナルテクスでは、南東区画の北側のアーチに聖母の予型を伴う旧約預言者像が並んでいる²¹。「閉ざされた門」は、天の弧から一枚扉がぶら下がる図像である【図3】²²。隣接する「ヤコブの梯子」²³と同

²⁰ Branislav Todić, *Serbian Medieval Painting : the Age of King Milutin*, Belgrade 1999, pp. 115, 117, 119-120.

²¹ ペチ総主教座の外ナルテクスは、装飾のほとんどが16世紀の補修であるが、南東の区画に14世紀の壁面が残る。「閉ざされた門」はその境目にあるが、人物の容貌からは14世紀の作例と思われる。

²² Gordana Babić, "L'image symbolique de la 'porte fermée' a Saint-Clément d'Ohrid," in: *Synthronon: Art et Archéologie de la fin de l'Antiquité et du Moyen Âge*, Paris 1968, pp. 149-50, Fig. 3. これと酷似する扉の図像が、プリズレン Prizren のボゴロディツァ・リエヴィシユカ Bogorodica Ljeviška 聖堂（1307-13年）ナルテクスのアーチに見られる。リエヴィシユカ聖堂の作例では扉を伴う預言者にエレミヤの銘が付されるが、手にする巻物の銘文には「通られぬ門」とある。Ibid., p. 149. エレミヤと「閉ざされた門」の銘の組み合わせは、

じ天の弧を分け合っているため、「天の門」²⁴という類似した聖母の予型イメージを想起させる。

1401年、クレタ島ヴィアノス Viannos にあるアギオス・ゲオルギオス Agios Georgios 聖堂には、座像の聖母子の両脇を10人の預言者が取り囲む構成が見られる。エゼキエルは右列3番目におり、部分的に剥落があるため細かな部分を見て取れないが、右手で扉を抱え、左手で聖母子を示しているようである²⁵。

2-b. エゼキエルと門を組み合わせ、聖母を描き込む作例

上の3つとは反対に、「閉ざされた門」に聖母の姿を描き入れる場合もある。14世紀の作例、キプロス島アシヌウ Asinou のパナギア・フォルビオティッサ Panagia Phorbiotissa 聖堂における「閉ざされた門」には、エゼキエルが巻物を広げて指し示す傍らに「門」の銘を付した建物が描かれる【**図4**】²⁶。木目調の模様で彩られたこの建物は、前面が一枚扉になっている。扉の表には「神の母」の銘とともに、両手を上げてオランス（祈り）の姿勢をとるマリアが立つ。な

パレルモのカッペッラ・バラティーナにおいても見られるものである。上述のエゼキエルとエレミヤの異同を除けば、ペチ総主教座ナルテクスのアーチに描かれた旧約預言者たちの配列とモチーフの表現は、リエヴィシュカ聖堂に表された聖母の予型図像のアーチのうち一列と全く同じものである。リエヴィシュカの図像については、次の文献の描き起こしを参照。Друго Издање, Богородица Левичка, Београд 1988, pp. 138-39.

²³ 創 28: 10-17。

²⁴ 創 28: 17。クレタのアンドレアスは「天の門、天の主人が唯一通り抜け、彼の前にも後にも誰も入ることが許されなかった門」という言い回しをしており、「天の門」と「閉ざされた門」は重ねて解釈することが可能なイメージであったことがわかる。Cunningham, *Wider than Heaven*, p. 138.

²⁵ Τίτος Παπαμαστοράκης, “Η ένταξη των προεικονίσεων της Θεοτόκου και της Ύψωσης του Σταυρού σε ένα ιδιότυπο εικονογραφικό κύκλο στον Άγιο Γεώργιο Βιάννου Κρήτης,” *Δελτίον της Χριστιανικής Αρχαιολογικής Εταιρείας* 4-14 (1987-1988), pp. 318, 319 note 26; Ioannis Spatharakis, *Dated Byzantine Wall Paintings of Crete*, Leiden 2001, pp. 148-52 and Fig. 132.

²⁶ *Asinou Across Time : Studies in the Architecture and Murals of the Panagia Phorbiotissa, Cyprus*, edited by Annemarie Weyl Carr and Andréas Nicolaidès, Washington, D.C. 2013, pp. 227-29.

お、「閉ざされた門」の対称位置には、聖母の予型主題である「モーセと燃える柴」²⁷が描かれており、それらが「マンディリオン（聖顔布）」の図像を囲む構成となっている。

1344年、クレタ島セリノ Selino 地区メルテス Mertes にあるアギオス・テオドロス Agios Theodoros 聖堂には、アプシス上部、「受胎告知」と「マンディリオン」の上部壁面に5つの聖母の予型図像が描かれる。「閉ざされた門」は壁面中央に組み込まれている²⁸。エゼキエルは右手に巻物を広げて跪き、振り仰いで上方を指さす。その先には両開きの扉のついた建物が表されている【図5】。中央部を丸く高くとる装飾的な扉の形状は、神殿の門ではなく至聖所の扉に特徴的な形状であり、背景には白い天蓋と赤い垂れ幕が見られる。扉は閉ざされ、その奥にマリアの上半身が垣間見える。天蓋の上には薄青い光の筋が射しており、エゼキエル書 44: 4 の神殿に満ちる主の栄光が図像化されている。光線上には小さな黄色い円と何らかの白い図像が見られる²⁹。この図像の右隣にある「ギデオンの羊毛」³⁰の主題において、ニンブスのついた白い鳩がマリアの上に降る図像が描かれているため、「閉ざされた門」の上に降る図像も同様にニンブス付きの鳩である可能性は高い。マリアへ向かって鳩すなわち聖霊が降る様子は、「受胎告知」を明確に想起させるものである。

2-c. 門の図像表現のまとめ

上記の5作例を見ると、「閉ざされた門」の図像は必ずしも「閉ざされたまま」のイメージに限定されていないことが見て取れる。ペチ総主教座の作例では、

²⁷ 出3: 1-8。

²⁸ Spatharakis, *Dated Byzantine Wall Paintings of Crete*, p. 85 and Fig. 74; Σταύρος Μαδεράκης, “Προεικονίσεις της Θεοτόκου και της ενσαρκώσεως του Λόγου στην εκκλησία του Αγίου Θεοδώρου στον Μεγάλο Σελίνου,” *Υδωρ εκ Πέτρας*, A, 1 (1978) pp. 64-65.

²⁹ スパタラキスやマデラキスの文献では光の筋に関して言及されていないため、細部が不明である。前註 28 参照。

³⁰ 士 6: 36-40。

開閉に関わらない扉板のみで表されていた。スヴェティ・ギョルギ聖堂の作例においては、扉のパネルが部分的に傾いているかのようなハイライトが施されていたことが注目される。この図像は壁面の高い位置に描かれているため下から見上げる状態になるが、このハイライトによって扉の中心が手前に膨らみ、ひらきかけるように見える効果を持つ。メルテスのアギオス・テオドロス聖堂の作例では、「閉ざされた門」が至聖所の門扉として表現されていた。至聖所の門は、典礼の要所において開かれるものである。アギオス・テオドロス聖堂の図像はまた、アプシス上部壁面という現実の至聖所の扉にごく近い場所に描かれており、描かれた図像と現実の至聖所とが重ね合わされる³¹。

3. 門と周囲の位置関係——物語場面形式の作例

上述した「門」の表現や意味をふまえ、ここから物語場面形式の作例に移る。コーラ修道院の場面構成と見比べるため、類似した場面構成を持つ3つの聖堂作例について³²、門と周囲の人物像や背景との関係性を考察する。

3-a. オフリドのパナギア・ペリブレプトス聖堂

マケドニア共和国オフリド Ohrid にあるパナギア・ペリブレプトス Panagia

³¹ 至聖所内部に祭壇・至聖所を含む図像を描いて両者を重ね合わせる表現については以下を参照。益田朋幸「ビザンティン聖堂装飾における『受胎告知』と『神殿奉献』——パレルモのカッペッラ・パラティーナとセルビアのストゥデニツァ修道院」『WASEDA RILAS JOURNAL』No. 2 (2014年) 57頁。

³² 後述する3聖堂のほか、マケドニアのレスノヴォ Lesnovo 修道院にも物語場面形式の「閉ざされた門」があるが、エゼキエル 44: 3 を中心に表した図像であり、コーラ修道院の図像と全く異なるため比較の対象から外した。レスノヴォの図像は以下のとおりである。前景左手にキリストが食卓に着き、テーブルの上に十字に切られた丸いパンが載る。右にエゼキエルが立ち、彼の背後に半ば隠れるようにして建築物が描かれる。片開きの扉は閉ざされており、建物のペディメントに小さく聖母の半身像が描き込まれている。Mirjana Gligoriјевић-Максимовић, “Иконографија Богородних праобраза у српском сликарству од средине XIV до средине XV века,” *Зборник радова Византолошког института XVIII* (2006), p. 306, Fig. 15.

Peribleptos (祝福されし聖母) 聖堂は、画家ミハイルとエウティキオスの署名を持つ、1294/95年の作例である。「閉ざされた門」はナルテクスの東壁南側にある。画面が上下に分けられており、上部にイザヤと燃える炭火の場面³³、下部にエゼキエルと門の場面が描かれている【図6】。

画面左半分に4人の人物像がまとまっている。左端は巻物を手にした預言者であり、巻物の銘文がエゼキエル書44章2節のものであることから、人物はエゼキエルとわかる。空間は狭く混み合い、エゼキエルのニブスや上半身は画面に入り切っていない。エゼキエルの前に掛かるようにして、右側に3人の祭司が並ぶ。2人の祭司は左手に黄金色の小箱を抱え、右手で吊り香炉を振るが、もう1人は後方から部分的に顔が確認されるばかりである。

画面右半分は、側廊つきのバシリカのような建築物が空間を大きく占める。建物の前面両脇に濃紫の柱が付属し、中央には閉めきられた扉がある。扉の表に聖母マリアの半身像を描いたメダイヨンが掲げられ、その上方に「M」と「Θ」、すなわち「神の母 Μητέρα του Θεού」の銘が記される。建物の両側にはセラフィムが控えており、左側のセラフィムは祭司らの背後から翼をのぞかせている。

コーラ修道院と比較すると、パナギア・ペリブレプトス聖堂の場面には祭壇の表象がなく、祭司らは建物の外に立って「閉ざされた門」へ献香している。ネルセシアンによれば、「閉ざされた門」の両脇に表されたセラフィムは、出エジプト記25章や列王記第三8章にあるような至聖所のケルビムを暗示している³⁴。すなわち、祭司らが「閉ざされた門」へ献香するために祭壇の表象は省かれたものの、門にエゼキエル書43:27の祭壇のイメージが重ねられているのである。

ルサノワは、コーラ修道院の3人の祭司がマギの礼拝を想起するというアンダーウッド以来の解釈について³⁵、パナギア・ペリブレプトス聖堂の「閉ざさ

³³ イザ6:1-12。

³⁴ Der Nersessian, "Program and Iconography," p. 348.

³⁵ Underwood, *Kariye Djami*, 1, pp.235-37; Engberg, "Aaron and His Sons," pp. 282-83.

れた門」が「クリスマス賛歌」の場面と隣接することを指摘して従来の解釈を裏付けている³⁶。ただし、ペリブレプトスの作例ではコーラ修道院の作例よりも祭司らの身振りが抑えられており、直ちにマギの礼拝を想起させるほどではない。画面左側に人物が密集する一方で建物の前が広くひらけているところを見ると、神が来られる場を香で清め、まだ見えぬ神を世に迎えんとしている様子とも受け取れる。

コーラ修道院の作例ではエゼキエルの姿が省略されていたが、パナギア・ペリブレプトス聖堂においてもエゼキエルの扱いは大きくない。預言者自身に銘がなく、画面端に追いやられて祭司らの奥に半ば隠れているところを見ると、物語場面形式の「閉ざされた門」においてはエゼキエルの姿がさほど重要視されないようである。

3-b. 首都のパナギア・パンマカリストス修道院

パナギア・パンマカリストス Panagia Pammakaristos 修道院はイスタンブール旧市街の北西部、コーラ修道院の程近くにある。建物は現在モスクとして使用されているが（フェティエ・ジャミイ）、南廊とその東側に接続する葬礼用礼拝堂が博物館として公開されている。

3-b. (1) パナギア・パンマカリストス修道院の「閉ざされた門」

パンマカリストス修道院の建物は、13世紀後半にミハイル・グラバスによって改築・寄進されたものである。東側の葬礼用礼拝堂については、ミハイルの死後1310年頃に彼の妻マルタによって増築されたものであるが、南廊に残る装

³⁶ Rossitza B. Roussanova, *Painted Message of Salvation: Program of Subsidiary Spaces in Macedonia*, Ph.D. diss., The University of Maryland, 2005, p. 224. また、エゼ 44: 3 に支配者の食事の項目があることと、ペリブレプトスの「閉ざされた門」の右隣に「神殿を建てたソフィア」の会食の場面が配置されるというつながりも指摘し、それが明確な作例としてレスノヴォ修道院の作例を挙げている。Ibid., p. 227 and note 63; 註 32 も参照。

飾はミハイル存命中の 1290 年代の作と推定されている³⁷。フレスコはほぼ剥落して 3 箇所断片を残すのみであるが、そのひとつ、元来は聖堂の南ファサードであった壁龕に「閉ざされた門」の図像がある【図 7】。壁面の右から 3 分の 1 が欠損しているものの、おおよその構成を見て取れる³⁸。

縦に細長い区画の中に、建築物と 3 人の人物が配されている。画面の上半分を建物占める。上端が壁龕の形に合わせて弧を描き、建物は実際の壁面の湾曲と相まって奥行き方向への広がりを感じさせる。建物の左側には濃紫の柱が付属する（おそらく右側にも対称の位置に柱があったと思われる）。中央に両開きの扉がついており、扉の前に浮かぶようにして、ニンブスを有する女性の全身像が描かれる³⁹。女性は正面観で、両手を軽く上げてオランスの姿勢を取り、銘は確認されないものの聖母マリアと見なされる。背後にある両開きの扉は 6 枚の部分からなり、扉の下方は平行に閉じているが、上方は中央に向かって傾斜する。戸口の上端は逆三角形に暗く彩色されており、扉がわずかにひらいていることがわかる⁴⁰。

画面下半分では 3 人の祭司が列をなしている。全員がニンブスを持ち、先頭から 2 人は長髪に長鬚で赤い小さな帽子をかぶるが、後方の 1 人は禿頭に無帽である。後方 2 人は蓋の開いた黄金色の小箱や鉢を手にし、吊り香炉を振る。先頭の祭司は衣で両手を覆い、蓋の開いた小箱を献げ持つ。祭司らの向かう先、画面右手は床が一段高くなっており、先頭の祭司は段に片足をかける。段上には祭壇が据えられている。祭壇は金の縁飾りのついた赤紫の布で覆われており、正面に円形の区画がついて何らかの図像が描き込まれた形跡が残り、おそらく

³⁷ Hans Belting, Cyril Mango and Doula Mouriki, *The Mosaics and Frescoes of St. Mary Pammakaristos (Fethiye Camii) at Istanbul*, New York 1978, p. 108.

³⁸ パナギア・パンマカリストス修道院の「閉ざされた門」の記述については、次の文献が最も詳しい。Cyril Mango, Ernst Hawkins, "Report on Field Work in Istanbul and Cyprus, 1962-63," *Dumbarton Oaks Papers* 18 (1964) p. 324 and Figs. 10-11.

³⁹ 現在では壁面の劣化が進み、人物像がほとんど判別できなくなっている。

⁴⁰ 註 38 の報告や註 37 のモノグラフをはじめとして、先行研究にはこの扉がひらいていることに特に言及されない。

聖母マリアのメダイオンであったと思われる⁴¹。祭司らの立つ場や祭壇を置く床面には装飾が施されている。

後景の門を含む建物と、前景の祭司らとの関係性は曖昧である。祭司らはいずれも「閉ざされた門」を見ていないため、エゼキエル書 43: 27 と 44: 1 以降の内容を上下に並べただけのようにも見える。祭司らは屋内にいるようだが、背景の建物も同じ屋内の光景であるのかどうかははっきりしない。後方の祭司は祭壇へと視線を向け、中央の祭司は観者を見返すようである。先頭の祭司は祭壇の更にも上方を見上げているが、壁面右側が剥落しているため、そこに何が描かれていたか不明である。

場面の構成はコーラ修道院とよく似ており、3人の祭司が左から右へと列をなし、段上の祭壇へ向かうところは同様である。とりわけ先頭の祭司が衣で両手を覆い、箱を献げ持って足を踏み出す様子は、コーラ修道院の作例において中央の祭司の表現に酷似する。

コーラ修道院と同様にパンマカリストスの場面にもエゼキエルの姿はないが、こちらは門にマリアが描き込まれているため、主題同定を見誤ることはない。パンマカリストスの作例において特筆すべき点は、「閉ざされた門」であるはずの門の扉が一部ひらいていることである。これを仮に「開きかける門」と呼ぶ。「開きかける門」は、どういった意図と文脈で表されたものだろうか。

3-b. (2) 「開きかける門」の図像表現

パナギア・パンマカリストス修道院の「開きかける門」は、両開きの扉の上端が中央に向かって傾斜し、上端に逆三角形の開口部を持つ図像表現である。これと同じ形で表される「門」の図像はビザンティンの作例にしばしば現れる。

⁴¹ 祭壇も聖母を予型するモチーフのひとつであり、祭壇正面に聖母のメダイオンが付されるのは珍しいことではない。「閉ざされた門」の作例では、後述するテサロニキのアイ・アポストリ聖堂に描かれており、このほか聖母の予型主題である「モーセの幕屋」（典礼朗読箇所では出 40: 1-5, 9, 10, 16, 34, 35）において頻繁に見られる表現である。

どのような場面において用いられているか、文脈に注意して以下にまとめる。

① 冥府の門

「門を上げよ、汝らの首長たちよ／永遠の門よあがれ／栄光の王がお入りになる」⁴²。詩篇第 23 篇 7-10 節には「永遠の門」という言葉が登場する。11 世紀の余白挿絵詩篇写本、『プリストル詩篇』(British Library, Add. 40731)⁴³の fol. 38v では、この章句の挿絵として「開きかける門」が添えられている【図 8】⁴⁴。茶色に塗られた両開きの扉は計 8 枚のパネルに区切られ、上端のパネルが中央に向かって傾き、薄く逆三角形の開口部を形作る。中は扉より暗い茶色で彩色される。門の左側に「永遠の門」、右側に「これらのことについて言われる、あなたは青銅の門を打ち壊した」の銘が記されており、右側の銘は詩篇第 106 篇 16 節「主は青銅の門を打ち壊した」から引かれている⁴⁵。これはキリストの復活に先立つ冥府降下において、キリストが打ち壊して中から死者を引き上げる冥府の門をさす。同じ文脈において、1360 年頃のアカティストス讃歌の装飾写本 (Moscow, State Historical Museum, Synodal gr. 429) では、「開きかける門」の左にキリスト、右にアダムをはじめとする死者たちが表されている【図 9】⁴⁶。これらの作例では、キリストによって今まさに打ち壊されんとする門、キリストの支配が及ぶところの門という文脈で「開きかける門」が使用されている。

⁴² 七十人訳詩篇 23:7。ヘブライ語版では最初の句が「門よ、頭を上げよ」。

⁴³ 『プリストル詩篇』については、大英図書館のウェブサイト上でデジタル化された画像を閲覧できる。British Library, Digitised Manuscripts, Add MS 40731, The Bristol Psalter (http://www.bl.uk/manuscripts/FullDisplay.aspx?ref=Add_MS_40731) (参照 2015-2-24)。

⁴⁴ 詩編 27: 7-10 における門の図像については以下を参照。辻佐保子『ビザンティン美術の表象世界』(岩波書店, 1993 年) 227-83 頁。プリストル詩篇の作例については 247 頁。

⁴⁵ 同書, 247 頁。

⁴⁶ Ioannis Spatharakis, *The Pictorial Cycles of the Akathistos Hymn for the Virgin*, Leiden 2005, Figs. 166, 675. アカティストス讃歌のオイコス 22 の場面。

② 陥落する町の城門

ビザンティン八大書の写本挿絵の中で、民数記 24: 15-19 に記される「バラムの第四の預言」においても「開きかける門」の図像が用いられている。11 世紀の写本 Vat. gr. 747, fol. 176v において、イスラエルによって陥落することを預言されるエドムとセイルの町の城門のひとつが、上部に逆三角形の開口部を持つ【図 10】⁴⁷。この表現は、12 世紀や 13 世紀の写本においても同様の構図で踏襲されている (Vat. gr. 746, fol. 358v; Mount Athos, Vatopedi Monastery, cod. 602, fol. 185r)⁴⁸。

加えて「バラムの第四の預言」には、ヤコブから進み出るひとつの星という、キリスト到来の予告として解釈される箇所が含まれる⁴⁹。このことから、イスラエルによってこれから攻め落とされるエドムとセイルの門は、到来するキリストによって異教が制圧されるイメージと重ねて見ることができるだろう。

③ 「エジプト逃避」と「エルサレム入城」の城門

「開きかける門」は、コーラ修道院の装飾においては一箇所のみ見出される。外ナルテクス、キリスト幼児伝中の「エジプト逃避」の場面である【図 11】⁵⁰。画面上方では、白く人形で表された 4 つの偶像が、エジプトの城壁から外へ向かってこぼれ落ちる。正面の城門は、両開きの扉の中央が傾斜し、上部が逆三角形にひらいている。偶像の失墜を主題とするこの場面は、通常、城門の前にエジプトの女性擬人像が身を屈める姿を配する。城門は完全にひらく作例も閉じている作例も両方あるが、10 世紀末にコンスタンティノポリスで作られた『バシリオス二世のメノロギオン』(Vat. gr. 1613, p. 274) では、衣を両手で覆

⁴⁷ Kurt Weitzmann and Massimo Bernabò, with the collaboration of Rita Tarasconi, *The Byzantine Octateuchs*, Princeton, N.J., 1999, p. 209 and Fig. 1008.

⁴⁸ *Ibid.*, Figs. 1011, 1012.

⁴⁹ 民 24: 17. Cunningham, *Wider than Heaven*, p. 241.

⁵⁰ Underwood, *Kariye Djami*, 1, pp. 97-98.

って恭しく聖家族を迎えるエジプトの擬人像がおり、その背後にある門が「開きかける門」とよく似た表現を持つ⁵¹。半開きの門は、エジプトが畏まってイエスを歓迎する意味を含んでいる。

このほかのキリスト伝において、「エルサレム入城」もまた「エジプト逃避」と似た構図を持っている。キプロスのカコペトリア Kakopetria にあるアギオス・ニコラオス・ティス・ステイギス Agios Nikolaos tis Stegis 聖堂において、エルサレムの城門は「開きかける門」の形を採用する⁵²。この場合は、キリストがこれから中に入るという方向性、エルサレムの都がキリストを歓迎して門をひらく様子を表現している。

このことから、コーラ修道院の「エジプト逃避」は「開きかける門」を用いることによって、幼子イエスがこれからエジプトへ入るという方向性、異教の都にイエスの力が及ぶこと、エジプトが彼を迎えて門をひらく様子を示していると考えられる。

3-b. (3) パナギア・パンマカリストス修道院の「開きかける門」解釈

上述の「開きかける門」の文脈を考慮すると、パナギア・パンマカリストス修道院の同図像は次のように解釈できる。閉ざされているはずの門をひらきかけることで、イエスがこれからマリアの胎に宿るという方向性、神の子を産むという事実をマリアが受け入れることを示しているのである。画家は「閉ざされた門」によってマリアの処女性を示すよりむしろ、「開きかける門」によって、神の受肉をいっそう強調する意図があったのではないだろうか。

⁵¹ Jacqueline Lafontaine-Dosogne, "Iconography of the Cycle of the Infancy of Christ," in: *The Kariye Djami*, vol.4, ed. by Underwood, New York 1975, p. 229.

⁵² 高橋榮一編著『ビザンティン美術（世界美術大全集 西洋編6）』（小学館、1999年）挿図151。

3-c. テサロニキのアギイ・アポストリ聖堂

ふたたび「閉ざされた門」の作例考察に戻る。テサロニキのアギイ・アポストリ Agioi Apostoloi (聖使徒) 聖堂は、銘によって 1310-14 年の作例として知られる⁵³。聖堂内の装飾はコーラ修道院のものと非常に似通っている。聖堂の南廊には、3 区画にわたって聖母を予型する旧約聖書場面が残されている。描かれる主題は 12 にのぼり、現存するビザンティンの聖堂装飾のうち最大規模の聖母の予型サイクルである。コーラ修道院に描かれる聖母の予型主題はすべてアギイ・アポストリ聖堂にも見られ、プログラムを見比べるには最も適している。残念ながら壁面の保存状態が甚だ悪く、写真では図像を判別することができないため、ステファンによる描き起こしを参照する【図 12】⁵⁴。

「閉ざされた門」が描かれるのは、南廊東区画のヴォールトの一部である。ヴォールト中央に聖母子のメダイオンを置き、周囲を十字に四分割した壁面の南西側に「閉ざされた門」が配置されている。画面の左側に 3 人の祭司らが並ぶ。いずれもニンブスをつけており、香炉や箱を手に行っているようである。画面中央には薄い段の上に大きな祭壇が設えられ、覆い布の前面には聖母マリアのメダイオンがある。祭壇上に聖具などは置かれていないようである。祭壇の側面から後ろを、コーラ修道院と同様の特殊な形状の壁龕が囲む。壁龕の背後には細長い建築物らしきものがある。前面が両開きの扉になっており、上から半分は剥落しているが、扉の中央に聖母のメダイオンが付されているため、「閉ざされた門」であることがわかる。門の傍らには預言者エゼキエルとみられる人物像がある。

アギイ・アポストリ聖堂の作例は、聖母の予型について説明的である。「閉ざ

⁵³ 近年の年輪年代学の調査によって、聖堂のオリジナルな構造物と見なされる木材が 1329 年のものとなり、献堂銘との齟齬が指摘されている。Peter I. Kuniholm and Cecil L. Striker, "Dendrochronology and the Architectural History of the Church of the Holy Apostles in Thessaloniki," *Architecture* 20, no. 1 (1990) pp. 1-26.

⁵⁴ Christine Stephan, *Ein byzantinisches Bildensemble : die Mosaiken und Fresken der Apostelkirche zu Thessaloniki*, Worms 1986, Abb. 88 und Skizze 88.

された門」に聖母のメダイオンを付し、門の傍らにエゼキエルを添え、祭壇にも聖母のメダイオンを付ける。エゼキエル書 43: 27-44: 4 の箇所において、門だけではなく祭壇もまた聖母の予型と見なされることを示している。首都のパナギア・パンマカリストス修道院の作例では祭壇の細部を確認できなかったが、パンマカリストス修道院においても祭壇のメダイオンに聖母を描き込んでいた可能性は高い⁵⁵。

場面の構成については、オフリドのパナギア・ペリブレプトス聖堂や首都のパナギア・パンマカリストス修道院とはっきり異なる点がある。アギイ・アポストリ聖堂では、祭壇と門が縦に並べられており、これによって祭司らは祭壇と門の両方へ向かって献香することが可能となった。上述の2聖堂と比べて、アギイ・アポストリの作例が最もエゼキエル書 43: 27 と 44: 2 を結び付けることに成功していると言えるだろう。

4. コーラ修道院の「閉ざされた門」再解釈

ここまでの考察をふまえ、コーラ修道院の「閉ざされた門」の場面に戻ってもう一度細部を眺める【図 1】。コーラ修道院の画家は、どのように場面を構成しているのだろうか。

4-a. 場面構成

コーラ修道院の「閉ざされた門」において、場面の前景と後景とのつながり、祭司らはどこに立っているのかということを考える。この場面は、かつてアンダーウッドによって、同じ葬礼用礼拝堂に描かれた「契約の箱の安置」と要素が似ていることを指摘されていた⁵⁶。筆者は両場面の内容の呼応についてまだ解釈できる段階でないが、少なくとも両場面は、聖書の章句を絵に表す際に同

⁵⁵ 註 41 参照。

⁵⁶ Underwood, *Kariye Djami*, 1, pp. 235-237. 本稿 1-b を参照。

様の法則をもって描かれていると考えられる。

「契約の箱の安置」の場面は列王記第三 8: 6-10 に該当する。要約すれば、祭司らが契約の箱を至聖所に安置し、その後建物の外に出ると、主の栄光が神殿に満ちたという内容である。コーラ修道院では次のように絵画化されている【図 13】。場面は壁によって上下に区切られている。前景では、数人の祭司が契約の箱をケルビムの座す至聖所に安置している。後景では、三角屋根の建物の入口から人々が列をなして出てきており、一様に画面右上を見上げて空を指す。画面右上には天の弧と光の筋が描かれ、主の栄光が建物を照らしている。後景の建物から姿を見せる先頭の人物は、前景で契約の箱を安置していた祭司と同じ衣で表されている。すなわち、場面前景に表されているのは、後景にある建物の内部で行われていたことなのである。

この法則をもって「閉ざされた門」の場面を見ると、3人の祭司らが祭壇へ献げ物をする様子は、左側の後景にある小さな建物の内部で行われていることになる。後景の建物は聖堂を模した形状であるため、祭司らが祭壇へ献げ物をする様子は、現実に司祭が聖堂で典礼を行なう様子と重ねられる。

4-b. ひらかれた「門」

それでは、画面右手、祭壇の背後に細く立つ建築物は何であるのか。先行研究ではこれに対して特に解釈を加えることなく、ただ背景の書割として扱っていた。しかし、筆者はこれがエゼキエル書 44: 2 の「門」の表象であると考ええる。

テサロニキのアギイ・アポストリ聖堂において、「閉ざされた門」が祭壇の背後に細く立ち上がる建物として描かれていたことはすでに確認した。アギイ・アポストリ聖堂は、制作においてコーラ修道院と強い類似が指摘される聖堂であり、コーラ修道院の場面に描かれた細い建築物が「閉ざされた門」に該当するであろうことは推測できる。ところが、コーラ修道院に描かれる建築物には扉が付いておらず、細く隙間がひらいているのみである。

神が通り抜ける時に「閉ざされた門」がひらく、という概念はいくつかの文献に見ることができる。すでに触れたクレタのアンドレアスのほか⁵⁷、ロマノスによる降誕の賛歌では次のように謳われている。星に導かれてイエスのもとにたどり着いたマギを、マリアが産屋に迎え入れる場面である。

彼女は扉をひらき、マギの一行を迎え入れる。

彼女は扉をひらく。それは決してひらかれぬ門、

ただキリストだけが通りぬけた門。

彼女は扉をひらく。それはひらかれたが、

誰にも純潔の室を盗られはしなかった。

彼女が自ら扉をひらき、そこから扉⁵⁸が生まれた。

新しき幼子、はるかな時に先立つ神が。⁵⁹

「閉ざされた門」がひらくイメージは確かに存在する。コーラ修道院と同じ首都のパナギア・パンマカリストス修道院における「開きかける門」の図像が明らかな証である。スタロ・ナゴリチャネのスヴェティ・ギョルギ聖堂において、門の上部がひらくかのようなハイライトが施されていたことも同じ概念によるものと筆者は捉えている。コーラ修道院の画家は、先行研究において言われてきたように「閉ざされた門」を描かなかったのではなく、「閉ざされた門」をひらいたのである。

これが「門」であることは、画面右上にある主の栄光がこの建物を照らし、光の筋が通り抜けていることから保証される。この表現はエゼキエル書 44: 4,

⁵⁷ P. G., 97, 900 A. 註5 参照。

⁵⁸ この「扉」はヨハ 10: 7-9 を指す。Romanos Melodos, *Die Hymnen*, u□bersetzt und erla□utert von Johannes Koder, Stuttgart 2005. 新共同訳では「門」と訳される。

⁵⁹ P. Maas, C. A. Trypanis, *Sancti Romani Melodi Cantica. Cantica Genuina*, Oxford 1963, 1 στ, θ. 本稿の訳出では θύρα を扉, πύλη を門として区別した。

「主の栄光が神殿に満ちた」の絵画化であると同時に、受肉の瞬間も表現しているのである。「閉ざされた門」をひらき、主の栄光がそこを通り抜ける様子を描くことで、クレタ島メルテスのアギオス・テオドロス聖堂の作例よりも、首都のパナギア・パンマカリストスの「開きかける門」よりも、なお発展した受肉の強調となっている。

4-c. 「門」の外から中への転換

光の筋は「門」の後方から前方へ向かって通り抜け、先頭の祭司のいる場まで注がれている。光が「門」の外から中へと入り込むことで、コーラ修道院の作例が他の作例とは異なる構成を試みたことがわかる。

オフリドのパナギア・ペリブレプトス聖堂では、祭司らが「閉ざされた門」のある建物の外に立っていた。首都のパナギア・パンマカリストス修道院では、祭司らのいる屋内と門との位置関係が判然としない。テサロニキのアギイ・アポストリ聖堂はコーラ修道院と非常に近い構成であるが、建築物の前面に「閉ざされた門」とマリアのメダイオンがあるため、却って門の内外の区別はつきにくい。

コーラ修道院の作例において、画面右上の光が「門」を通過して建物の内部へ注ぎ、祭司らに届いていることは、次の三つの要素を組み合わせると整合性を持たせたものと考えられる。すなわち、エゼキエル書 44: 1 にある「東に面する至聖所の外門」という言葉、祭司らが至聖所の祭壇へと向かう方向性、そして現実の礼拝堂における後方からアプシスへの方向性である。

ビザンティンの聖堂は東側に至聖所を設けるのが常であるため、後方から祭壇へと向かう動きは西から東への方向性を持つ。この「閉ざされた門」の場面は礼拝堂内の北壁に描かれているため、画中で祭司らが祭壇へと近づく方向は、現実の礼拝堂の後方から祭壇へと向かう方向と一致している。祭司らは現実の礼

拝堂と同じように⁶⁰、東へと進んで至聖所の祭壇に近づき、画面右端に描かれた門、「東に面する至聖所の外門」を内側から見ていることになる。

描かれた場面は現実の礼拝堂と重ね合わされる。「門」を通り抜ける主の栄光は、受肉の表象にとどまらない。光は祭司らのいる至聖所内部に届き、現実の礼拝堂の中に神の光が満ちることを暗示する。コーラ修道院の画家は、「閉ざされた門」という聖母を予型する旧約聖書の主題を用いながら、受肉と神の現存を表しているのである。

4-d. 「閉ざされた門」と周辺の図像配置

上に述べたように、コーラ修道院葬礼用礼拝堂において「閉ざされた門」が北壁に描かれたことは必然的な結果である。礼拝堂の聖母の予型図像サイクルは、主題を壁面にどのように配置するべきか注意深く選択されている。「閉ざされた門」と対置される「アッシリア王へのイザヤの預言」の場面に、門としての聖母のイメージが共通することはネルセシアンによって指摘されていた⁶¹。おそらく両主題は、神殿の門とエルサレムの城門という、建物の入口のイメージを有するために、礼拝堂の入口を縁取るアーチの南北壁面に対置させられている。主題そのものが礼拝堂の門を形作るのである。加えて、礼拝堂北壁において「閉ざされた門」の右隣に続く場面は「ヤコブの梯子」である。「閉ざされた門」と「ヤコブの梯子」という両主題が、「天の門」というキーワードによってつながることは、ペチ総主教座外ナルテクスにおける「閉ざされた門」と「ヤコブの梯子」の図像から推測される【図3】⁶²。これらの主題配置は、考え抜かれた上で選択されているのである。

⁶⁰ 描かれた図像を現実の祭壇への方向性と重ね合わせることについては、以下の文献を参照。益田朋幸『ビザンティンの聖堂美術』（中央公論社、2011年）212頁。

⁶¹ Der Nersessian, "Program and Iconography," p. 348. 本稿 1-b. を参照。

⁶² 創 28: 17. 註 22-24 も参照。

結び

同じ聖書箇所に基づいた図像であっても、絵画化する際には様々な解釈と試行錯誤があり、各聖堂の個性が浮かび上がる。聖堂内のどこに描くか、その図像を用いて何を表したいかによっても、とるべき表現は異なってくるだろう。コーラ修道院葬礼用礼拝堂の「閉ざされた門」の場面は、閉ざされたままであるはずの「門」をひらいて神の光を通すことで、聖母マリアの処女性よりも神の受肉をいっそう強調することを試みた。神が人となられ、私たちのうちに生きて死に、葬られたことを私たちは思い起こすのである。そうしていつの日か、キリストの復活にも与ることを待望する。画家はまた、「閉ざされた門」の至聖所と現実の礼拝堂とが二重写しになるよう構成した。それはあたかも、現実の礼拝堂内に光が差し込み、神が今ここにおられるように感じさせるものである。

描かれた図像は聖書の単純な絵解きではなく、目を楽しませるための飾りでもない。どのように描けば神をふさわしく讃え、神を間近に感じられるかと心を砕いた人々の思考の結実に他ならない。選択された図像や構成は、それぞれに意味を有している。描かれたものを手掛かりに、画家や創建者の思考、ビザンティン当時の解釈の可能性をたどり、それぞれの作例を読み解いていくことが筆者の課題である。



図1：「閉ざされた門」 コーラ修道院葬礼用礼拝堂、1316-21年
イスタンブール



図2：「閉ざされた門」 スヴェティ・ギョルギ聖堂、1316-18年
スタロ・ナゴリチャネ、マケドニア



図3：「閉ざされた門」 ペチ総主教座外ナルテクス、14世紀
コンヴォ



図4:「閉ざされた門」 パナギア・フォルビオティッサ聖堂、14世紀
アシヌウ、キプロス



図5:「閉ざされた門」 アギオス・テオドロス聖堂、1344年
メルテス、セリノ地区、クレタ



図6：「閉ざされた門」 パナギア・ペリブレプトス聖堂、1294/95年
オフリド、マケドニア



図7:「閉ざされた門」 パナギア・パンマカリストス修道院、1290年代
イスタンブール

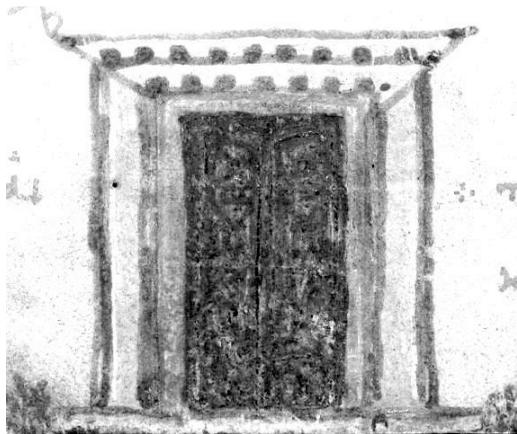


図 8 : 「永遠の門」 British Library, Add. 40731, fol. 38v 11 世紀



図 9 : Moscow, State Historical Museum, Synodal gr. 429 1360 年頃



図 10 : 「バラムの第四の預言」 Vat. gr. 747, fol. 176v 1071-1078 年頃

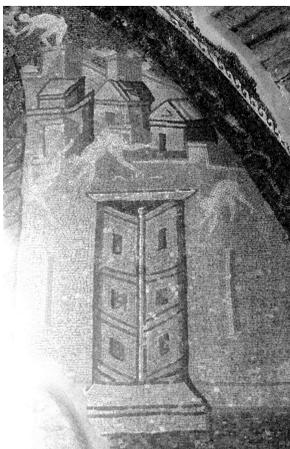


図 11 : 「エジプト逃避」 コーラ修道院外ナルテクス、1316-21 年
イスタンブール

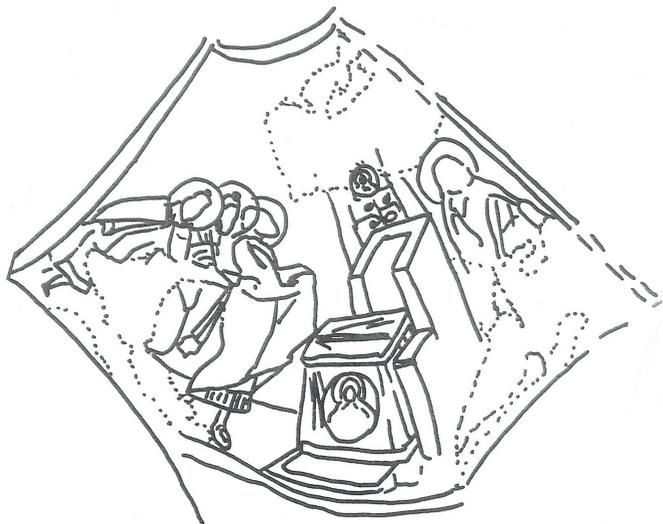


図 12：「閉ざされた門」 アギイ・アポストリ聖堂 1310-14年／1329年頃
テサロニキ、ギリシア



図 13：「契約の箱の安置」 コーラ修道院葬礼用礼拝堂、1316-21年
イスタンブール

図版出典

- 図 1 : 筆者撮影。
- 図 2 : 武田一文氏（早稲田大学）による撮影。
- 図 3 : 筆者撮影。
- 図 4 : 益田朋幸氏（早稲田大学）による撮影。
- 図 5 : Ioannis Spatharakis, *Dated Byzantine Wall Paintings of Crete*, Leiden 2001, Fig. 132 を一部拡大。
- 図 6 : 武田一文氏（早稲田大学）による撮影。
- 図 7 : Hans Belting, Cyril Mango and Doula Mouriki, *The Mosaics and Frescoes of St. Mary Pammakaristos (Fethiye Camii) at Istanbul*, New York 1978, Fig. 109 を一部拡大。
- 図 8 : British Library, *Digitised Manuscripts*, Add MS 40731, *The Bristol Psalter*, fol. 38v.
- 図 9 : Ioannis Spatharakis, *The Pictorial Cycles of the Akathistos Hymn for the Virgin*, Leiden 2005, Fig. 675.
- 図 10 : Kurt Weitzmann and Massimo Bernabò, with the collaboration of Rita Tarasconi, *The Byzantine Octateuchs*, Princeton, N.J., 1999, Fig. 1008.
- 図 11 : 益田朋幸氏（早稲田大学）による撮影。
- 図 12 : Christine Stephan, *Ein byzantinisches Bildensemble : die Mosaiken und Fresken der Apostelkirche zu Thessaloniki*, Worms 1986, Skizze 88.
- 図 13 : 筆者撮影。